



2015年12月10日

企業と経営者

開講される学科：大東文化大学経営学部企業システム学科の三年生を対象に開かれる講義。第一線で活躍している企業や組織の方々に毎回来ていただき、①その企業の属している業界概要、②その企業の概要(経営理念および戦略をも含む)と求める人材、③社会で活躍するための心構え、などを中心に話していただき、学生諸君に業界知識の習得および企業人としての心構えを身につけてもらうことをねらいとする。

[▶ 経営学部の授業一覧に戻る](#)



第10回 株式会社シオザワ

代表取締役社長 塩澤好久 先生

2015年12月10日、経営学部の講義「企業と経営者B」では、株式会社シオザワの代表取締役社長、塩澤好久氏を講師に迎え、『今求められる人材像～紙ビジネス・ビジョンから学ぶ～』というテーマで講演が行われた。

株式会社シオザワは1937年創業の紙をビジネスの軸に据えた専門商社である。1997年、塩澤氏は35歳で代表取締役社長に就任し、現在に至る。シオザワの本業は紙の販売事業であったが、バブル崩壊後の印刷業界の不振を受け、多角化を進めている。現在では①紙の販売事業と②機密書類の処理事業、③紙を使った企画・制作事業を事業の三つの柱に据え、シナジー効果を生かしながら事業を広げている。市場の成熟化を見据えた脱成熟化の模範的な戦略と言えるだろう。

塩澤氏は紙事業を四つの象限(減って行く紙・残したい紙・伸びる紙・残る紙)に分け、そのうち残したい紙と伸びて行く紙に焦点を絞って分析し、紙事業は、「情報を伝える紙」から「感情を伝える紙」へとデマンドを変化させていると指摘する。そのためには顧客が商品やサービスを使用する際のストーリーを、専門性と人間性の二面から、右脳を使って柔軟に考え、埋没している顧客のデマンドを掘り当てて行く事が肝要だと主張した。シオザワの手がける様々な新しい事業はそうにして芽づる式に生み出されているのである。

塩澤氏は、学生達がやがて「人財」となるためのコツを熱意と様々な名言を用いて説明した。今回の講演が、学生諸君にとって社会に旅立つにあたっての有意義な助言となった事は間違いないだろう。

(文責: 國府俊一郎 経営学部 准教授)

[企業と経営者 ニュース&バックナンバー](#) →